

治癒状態共有webサービスの開発

—リハノートによる自宅リハビリ支援システム— 田脇裕太、森山多覇、孫暁白

◆製品／サービスの背景、目的

介護が必要になる主要な要因は脳卒中である。脳卒中患者は退院後も継続したリハビリ（生活期リハビリ）を行う必要がある。しかし、現在の制度では脳卒中患者が利用できる保険内個別リハビリの時間は入院中と比較して著しく短い。また脳卒中後うつもリハビリの継続を阻害する。私たちは脳卒中当事者がお互いの身体状態を共有しながら適切なリハビリを継続できるシステム（リハノート）の開発を目指した。



◆実現した製品[リハノート]

- ・ 自宅で正しいリハビリが可能
- ・ 手指の運動機能や重心動揺などの複数の測定を統合
- ・ 自身の治癒状態と似た症状の患者と共有できる

◆市場（あるいはユーザ）にもたらす効果

- ・ 脳卒中当事者が自宅で気軽に自身の治癒状態を知ることができるのでリハビリの継続率が高まる
- ・ 症状の似た当事者同士のつながりが増え、孤独感の軽減やリハビリのモチベーション向上に寄与する

◆現状

- ・ 初期のユーザにサービスを体験していただき、ゲーム内容に対する評価を得た
- ・ 初期ユーザからの指摘事項を修正し、より多くのユーザに体験してもらえるように準備中

